令和元年度

前期　学校評価

資料１　自己評価

資料２　生徒アンケート

南アルプス市立

白根御勅使中学校

南アルプス市立白根御勅使中学校

令和元年度

白根御勅使中学校関係者評価委員

秋　山　　契　様

岡　　貞　善　様

岡　根　陽　子　様

金　丸　能　子　様

清　水　　宰　様

（５０音順）

1　学校評価の目的

①　各学校が，自らの教育活動その他学校運営について，目指すべき目標を設定し，その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価することにより，学校として組織的・継続的な改善を図ること。

②　各学校が，自己評価及び保護者など学校関係者等による評価の実施とその結果の公表・説明により，適切に説明責任を果たすとともに，保護者，地域住民等から理解と参画を得て，学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めること。

③　各学校の設置者等が，学校評価の結果に応じて，学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講じることにより，一定水準の教育の質を保証し，その向上を図ること。

2　学校評価の方法

①　自己評価は，全職員による自己評価をもとに，生徒・保護者へのアンケート（生徒年２回，保護者年１回）の結果を加えて行う。

②　自己評価は，年２回行う。

③　自己評価の結果を踏まえて，学校関係者評価委員会による学校関係者評価を年２回行う。

④　自己評価と学校関係者評価の結果を公表する。

⑤　自己評価と学校関係者評価の結果をもとに，改善点を全職員で共有し，来年度以降の学校教育に活かしていく。

3　前期自己評価

Ⅰ　自己評価の具体的方法

①　本年度の学校教育目標をふまえて，評価項目を決定する。

②　全職員が評価項目を４段階で評価する。

４；　あてはまる

３；　どちらかというとあてはまる

２；　どちらかというとあてはまらない

１；　あてはまらない

③　全員の評価結果を集計し，項目ごとの平均値を算出する（小数点以下２桁目を四捨五入し，小数点以下１桁で数値化)。この平均値を次のカッティングポイントに照らして，判定する。

３．０以上　・・・・・・Ａ（概ね良好である）
２．９～２．５　・・・・Ｂ（工夫・改善の余地がある。）
……
２．４～２．１　・・・・Ｃ（工夫・改善が必要である。）
２．０以下　・・・・・・Ｄ（根本的に工夫・改善を図る必要がある。）

④　全生徒と全保護者に向けて行うアンケートは，職員の自己評価項目と関連させながら項目を決定し，職員の自己評価同様４段階の数値で評価する。アンケートの結果から項目ごとの平均値を算出し，職員の自己評価と同じカッティングポイントで判定（Ａ～Ｄ）する。

⑤　職員による自己評価をもとに，これに生徒・保護者へのアンケート結果を加えて自己評価書を作成する。

Ⅱ　前期自己評価結果（自己評価書）

南アルプス市立白根御勅使中学校	令和元年８月２６日（月）作成
学校長　　飯　野　芳　重	記載者氏名　　教頭　　樋口玲子

１　本年度の学校教育目標

（１）　校訓　「一生懸命」　～真面目で一生懸命が一番かっこいい～

（２）　学校教育目標　「志を持ち，道を拓く生徒」

努力は人を裏切らない　　努力できることが才能である

頑張ってよかった体験　　大切にしてもらった記憶

（３）目指す生徒像

知を磨く生徒　　心を耕す生徒　　体を鍛える生徒　　故郷を愛する生徒

（４）令和元年度指導重点

○ 子どもたちに，御勅使中で大切にしてもらった記憶を残す
○ 白根御勅使中愛と笑顔と挨拶が学校に満ち溢れる
○ 確かな学力，豊かな心，健やかな体をバランスよく育成する
○ 確かな学力の獲得に向け，学びあう集団を育成する
○ 生徒一人一人の教育的ニーズを把握し，キャリア発達を支援する
○ 部活動，体験活動などを通して望ましい集団をつくり，豊かな情操を育む
○ 生徒の自己防災力・自己安全力を高める
○ 家庭・地域との連携を強める
○ 小学校と一貫性のある目指す児童生徒像及び教育課程の編成をめざす
○ 次期学習指導要領完全実施のための準備を進める

２　職員自己評価集計結果（資料１），生徒アンケート（資料２）

令和元年７月に，学校職員による自己評価及び生徒によるアンケートを実施した。その質問項目と集計結果を，資料１～２に示した。

評価項目は，昨年度見直しを行ったが，今年度，「自己評価・生徒アンケート・保護者アンケートは教職員の職務遂行指針である。」という観点から更に大幅な見直しを行った。その結果，自己評価は１６項目，生徒アンケートは１８項目となった。特に自己評価については，３２項目が半分の１６項目となり，「職務遂行指針」として教職員の努めるべきことが，より明確にわかりやすくなった。また，評価に責任をもつため記名式とした。

保護者アンケートは，今年度からは年１回後期のみの実施とした。新年度になって３か月弱の短期間では答えづらい部分もあるため，学校の様子が保護者にも十分伝わった後期にアンケートを取り，その後及び翌年度の教育活動に生かしていく。

３　評価と改善策

（１）全体的な評価

職員による自己評価の結果は，全１６項目がＡ判定となった。このうち平均値４．０ポイントが８項目あり，前年度と比較できる項目全てで数値が上昇している。この結果から，本校の教職員が，職務を自覚し，職務遂行に努めていることが見てとれる。

自己評価の項目は，教職員の職務遂行指針として年度当初に校長より提示され，教職員はよりよい学校創りに向け常に意識するようにしている。学校評価を中心にした「取組ベクトルの一体化・見える化・徹底」が図られた結果が，今回の高評価に結びついていると考えられる。

ただし，「３」を付けた職員が多い項目もいくつかある。また，「部活動」の項目では「２」を付けた職員もいる。これは「努めていない」というよりも，学校に求められることが多様化・複雑化している中で，教職員には全てのことに対応しきれていないという漠然とした危機感や不安感があり，自分自身を謙虚に評価した結果ではないかと思われる。教師の多忙化が危惧され，学校内でも業務改善が進められてはいるが十分ではない。私たち教師が心にゆとりをもって子どもたちと向き合う時間を確保することができるよう学校全体で取り組んでいきたい。

生徒のアンケートについては，全１８項目がＡ判定であった。昨年度Ｂ判定であった「家庭学習の習慣化」と「自己肯定感」も平均３．１ポイントではあるがＡ判定であった。「家庭学習の習慣化」は，ここ数年連続してＢ判定であったが，学校と家庭が連携して取り組んできた成果が表れてきていると読み取れる。また，「自己肯定感」に関しても，昨年度前期では２．９ポイントのＢ判定，後期では３．０ポイントのＡ判定，今回は３．１ポイントのＡ判定と徐々に上がってきている。教師の授業改善に校内研で取り組み学力の向上を図ることに努めたり，修学旅行や校外学習等の学校行事や諸活動を通して責任感や達成感・成就感がもてるような機会を設けたりしてきたことが，子どもたちの自信につながってきたのではないだろうか。

以上の結果については，職員全体で真摯に受け止め，気を緩めることなく共通理解を持って改善に努め，２学期以降の教育活動に生かしていきたい。

（２）各項目の評価と改善策

評価項目Ⅰ　「学校運営」に関して
【自己評価】 ４項目すべてがＡ判定であった。教職員が白根御勅使中学校に愛情と誇りをもち，共通認識のもと，校訓・学校教育目標を意識して連携・協力して教育活動にあたっていると考えられる。また，昨年度と比較可能な３項目全てで０．４～０．５ポイントの上昇が見られ，職員の意識や意欲がより高まっていることが読み取れる。
【改善策】 この結果に満足せず，今まで以上に全教職員が一枚岩となって，全ての教育活動により一層粘り強く取り組んでいく。常にＰＤＣＡサイクルを意識し，今後も組織・チームとして対応していくことを重要視する。学校現場では若い教師が増えている。校内でＯＪＴを推し進めるとともに，悩み

や問題を一人で抱えることなく気軽に相談できる体制作りや，意欲や自信をもって力を発揮できる職場づくりを進めていく。

評価項目Ⅱ　「教科指導」に関して

【自己評価】

３項目すべてＡ判定であった。特に，No. ５「基礎的・基本的知識・技能の習得を目指した授業」は，平均４．０ポイントの高評価であり，昨年度前期との比較では０．８ポイントの上昇であった。また，No. ６「校内研」は昨年度前期が平均３．３ポイント，後期が３．４ポイントであったので１年前から比べ０．４ポイント上昇したことになる。これらの結果から，「やまなしスタンダード」を意識した授業づくりに継続して取り組んできたことや，今年度から校内研に大学教授を招聘し「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け研究を進めてきていること等が教師の自信につながり改善に結びついたと考えられる。生徒アンケートにおいても，No. ２「授業への取組み」は昨年度より０．３ポイント上昇の３．４ポイント，No. ３「授業の内容理解」も３．２ポイントのＡ判定であった。また，No. 17「授業はわかりやすい」も３．６ポイントであった。

しかし，「授業の内容理解」については，評価３「どちらかというとあてはまる」と評価した生徒が 144 人と最も多く，自信をもって「わかっている」と答えられない生徒も多い。今後も，校内研を中心に授業改善を推し進め，学力向上への取り組みを進めていかなければならない。

また，No. ７「学習習慣」は，昨年度前期から０．７ポイント上昇の３．８ポイントであった。生徒アンケートにおいても，No. 12「家庭学習」が昨年度のＢ判定から０．３ポイント上昇しＡ判定と好転している。学校での自主学習への取組みや，家庭の協力の成果が表れてきていると読み取れる。しかし，生徒アンケートの数値は平均３．１ポイントであり，「１」及び「２」と評価した生徒が６０人であり，４分の１に当たる生徒は家庭学習が習慣にはなっていないことになる。今後も，家庭学習の定着への取り組みを継続していく必要がある。

【改善策】

本校の課題の一つとして学力の向上があり，これには教師の授業力の向上が欠かせない。教師の授業力向上には校内研究が核となる。本校では，今までも「やまなしスタンダード」を意識した授業づくりに継続して取り組んできたが，今年度から校内研に大学教授を招聘し指導を仰ぐとともに，県内外の先進校の公開研究会へ参加する等，「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け研究を進めてきている。今後も，「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け，全員が授業を公開し，質の高い探究課題の設定等，学び合いのある授業に取り組んでいく。全ての生徒が生き生きと意欲的に取り組む授業をめざし，教員同士も切磋琢磨し，学び合う職場の同僚性も高めていきたい。

家庭学習の習慣化については，現在，毎日の授業の振り返りに結びつく自主学習ノートに学年ごと取り組んでいる。今後，自主学習ノート以外にも，各教科の授業と家庭学習が有機的に結びつくような課題の研究を校内研究でも検討し，家庭の協力も得ながら取り組んでいきたい。

評価項目Ⅲ　「生徒指導」に関して
【自己評価】 ６項目すべてがＡ判定であった。No.８「生徒を大切にしている。」とNo.12「生徒の安全・心身の健康への配慮」は，教職員全員が評価４であったことをはじめ，６項目中５項目が平均３．９～４．０の高評価であった。生徒アンケートにおいても，No.15「先生は，良さや頑張りを認めてくれる」が３．６ポイント，No.16「心配事などの相談にのってくれる」３．５ポイントであった。これらの結果から，本校の教師が生徒に誠意をもって愛情深く接し，相談事にも親身になっている状況が見て取れる。 また，生徒アンケートのNo.４「部活動」，No.５「当番活動」，No.６「あいさつ」，No.７「言葉遣い」，No.８「ルールを守る」，No.９「交通ルールを守る」，No.13「いじめをしない」はいずれも３．５ポイント以上の高評価であり，本校の生徒たちが自分や仲間を大切にし，学校での活動に真面目に取り組んでいることがうかがえる。 ただ，自己評価のNo.13「適切な部活動の指導」については，平均３．７ポイントではあるが，評価３が６名，評価２が１名であった。本校の教師の部活動の指導状況から考えると，全く当てはまないという感を拭えない。「専門の種目ではないため指導に自信がもてない」「他の指導のために部活動の最初からは指導に行けない」等，生徒のためにもっと指導したいが様々な事情によりできないという申し訳なさからの謙虚な評価であると考える。 生徒指導は，全ての学校教育活動の中で，生徒の自発的かつ主体的な成長・発達の過程を支援していく働きかけが大切である。今後も継続して生徒とのコミュニケーション・信頼関係を深め，より適切な指導にあたりたい。
【改善策】 すべての項目でＡ判定となっているが，この結果に甘んじることなく，これまで取り組んできた内容をいっそう徹底して進めていく。「生徒指導は生徒理解から」が大原則であり，一人一人の生徒に愛情深く誠実に向き合うことが大切である。生徒指導部会や学年部会やケース会議等を通じ，共通理解に基づいた組織的な取組みやチームとしての対応を進めていく。 また，今後も早期対応・早期解決に努める。年５回実施のいじめアンケートの他にも，日々の生活ノートでのやり取り等，生徒の声に耳を傾け，小さな変化も見逃さないよう全教師が肝に銘じ取り組んでいく。また，ＳＣ（スクールカウンセラー）やＳＳＷ（スクールソーシャルワーカー），市教育委員会等の関係機関とも必要に応じて連携していく。 「ルールを守る」「言葉遣い」「当番活動」等については，今後も生徒会の活動等としても取り組むとともに，学校全体で場面を捉えて適切な指導を行っていく。また，部活動には多くの生徒が熱心に参加し活動している。部活動で学んだことが日常の生活や学習に良い影響を与えている生徒も多い。また，部活動の成果を全校でたたえ応援する雰囲気もある。今後も，学校全体で部活動に積極的に取り組んでいくが，顧問が一人で悩みを抱えることなく，教職員全員で悩みを共有し助け合う教員集団を目指したい。

評価項目Ⅳ　「信頼される学校」に関して
【自己評価】 ３項目すべてにおいて平均３．９ポイント以上のＡ判定となった。本校の教職員が，教育公務員として「自己の崇高な使命」を深く自覚し，職責の遂行に努めていることがわかる。また，日常的に，保護者や地域等との連携・協力や危機管理に努めていることも見て取れる。 今後も，日々の教育活動に真摯に取り組み，伝統ある白根御勅使中学校として地域・保護者・生徒から信頼され，地域の誇りとなるよう努めていきたい。
【改善策】 この結果に慢心することなく，全教職員が教育公務員としての使命と職責の重さを再確認し，気持ちを引き締めて教育活動に取り組んでいかなければならない。 また，生徒の命を預かる学校として，危機管理にも万全を期さなければならない。校舎等の安全点検の実施を怠らないのはもちろんのこと，校外行事等での安全も徹底する。そのためには，教職員の安全への知識や意識の向上が求められる。機会あるごとに研修を進めていきたい。 また，たよりやＨＰによる情報発信，学校連絡メールの適切な活用等により，学校から保護者への情報提供を密にするよう努め，保護者との連携・協力を推進する。地域の人々にも学校に足を運んでいただいたり，生徒や教師が学校の外へ出て活動したりすることにより互いに理解が深まっていく。今後，地域人材の活用や，生徒会活動の古紙回収等，地域住民との連携が図られるよう努めていきたい。

4　学校関係者評価

Ⅰ　第１回学校関係者評価委員会

実施日：令和元年８月３０日（金）午後７時００分～８時３０分

会　場：白根御勅使中学校　会議室

参加者：学校関係者評価委員　‥‥　秋山　契（委員長）　　岡　貞善（副委員長）

岡根陽子　　金丸能子　　清水　宰

学校職員　‥‥‥‥‥‥‥　校長：飯野芳重　　教頭：樋口玲子

教務主任：田中富久

１　学校側から提案された内容

（１）　白根御勅使中学校 学校関係者評価委員会会則について

（２）　学校評価の目的について

（３）　学校評価の方法について

（４）　前期自己評価及び生徒アンケートの結果について

２　協議された主な内容

（１）　自己評価結果についての全体評価

（２）　自己評価結果から課題となる項目について

（３）　生徒アンケートの結果と課題となる項目について

（４）　その他

Ⅱ　令和元年度　南アルプス市立白根御勅使中学校学校関係者評価書　（写）

平成元年９月２日（月）

学校関係者評価委員作成

評価項目は，昨年度に続き今年度も見直しが行われ，自己評価は３２項目から１６項目となった。また，生徒アンケートも２４項目から１８項目となった。見直しの理由として次のことが説明された。

「学校評価は，自己評価・生徒アンケート・保護者アンケートの項目全てが，教職員の仕事である。特に自己評価は，『教職員の職務遂行指針』として常に意識されていなければならない。しかし，学校には多くの目標が存在しており，逆にわかりづらく見えにくくなっている。そのため，『学校運営』『教科指導』『生徒指導』『信頼される学校』を柱に据え，似たような項目をまとめることで，目標の『見える化』と『徹底』を行い，取組ベクトルの一体化を図った。」

また，記名式にしたことについては，「自分自身の評価に責任を持つと同時に，生徒アンケートに関しては生徒の状況把握の意味もあり，支援が必要な生徒に対して早期に対応できるという点でも役立っている。」ということであった。

教職員による自己評価は，全１６項目すべてがＡ判定であり，このうち平均値４．０ポイントが８項目という高評価であった。また，前年度と比較できる項目全てで数値が上昇している。この結果か

ら，先生方が自己の職務を自覚し，職務遂行に努めていることが見てとれる。また，委員からも日頃の先生方の教育に対する姿勢や生徒たちへの愛情深い関わり等に対して感謝する意見があり，白根御勅使中学校の教育活動が順調に行われていることが感じられた。先生方が和をもって取り組んでいることが，生徒や保護者にも伝わり，全てのことがうまく回っている。今後も校長先生を中心に教育活動を展開していっていただきたい。

また，生徒の意見の中には，「先生が熱心。」「先生が優しい。」「先生方が元気で明るい。」「先生と生徒の仲がよい。」「先生たちの仲がよい。」等，先生たちに対する良い評価が多かった。先生たちも「生徒が素直。」「生徒が一生懸命。」等，生徒を褒める言葉が多い。このことからも，先生方と生徒，先生方同士が「白根御勅使中愛」をベースとした信頼関係で結ばれていることがわかった。

ただし，非常に良い結果だからといっても，そこに見落としや油断はあってはならないことである。非常に良いからこそ，個々の項目について精査し，課題の解決に努めていただきたい。例えば，生徒アンケートで「私は，学校は楽しいと思う。」の項目は平均３．４のＡ判定ではあるが，「１」と「２」を答えた生徒が３４人いる。このような全体の数字には表れない個々の生徒が抱える悩みや課題にも，今後も親身になって取り組んでいっていただきたい。

他に，委員からは「同じ教科でも，教える先生によって差が出ることがあるので，先生方にはわかりやすく楽しい授業を期待したい。」という意見や，「部活動に熱心に取り組んでいただき感謝しているが，外部指導者等の配置も進めていただきたい。」という意見が出された。校内研究で大学の先生を招聘して「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて研究を進めているとのことであったので，今後も生徒たちのために努力を続けていただきたい。

全体的には，教職員の自己評価及び生徒アンケートともに高い評価となっており，白根御勅使中学校の教育活動は充実しており，安心して子供たちを預けられる学校になっていると評価できる。

今後も引き続き，先生方には一致団結して学校運営に当たっていただきたい。校訓「一生懸命」の下，学校教育目標でもある「志を持ち，道を拓く生徒」の育成を目指し，白根御勅使中学校の教育活動が展開されていくことを期待する。

記載責任者

南アルプス市立白根御勅使中学校　学校関係者評価委員会委員長

秋　山　　契　　㊞